



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2019年4月7日

No. 59

神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に
遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、
逃れる道をも備えていてくださいます。

コリントの信徒への手紙一 10章13節



礼拝献花より

神と共に 人と共に

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『待っている神』

牧師 佐藤和宏

ルカ15章11節〜32節

先月より、第4日曜日の礼拝後に学びの時間を持っています。2回目となりました先日の学びの時間では、冒頭で第一回の振り返りをいたしました。第一回は「教会」について「教会は信徒の集まりであり、しかも主イエスをかしらとするからだである」ということを学んだのでした。そこで振り返りとして、次のような問いかけがなされました。「あなたはキリストの体のどの部分だと思えますか。その理由は何ですか？」

コリントの信徒への手紙一12章12節以下で、パウロは体の部分をあげ、それぞれの部分が必要な要素であること、そしてそれぞれの部分が違って、違いが集まって一つの体である教会を構成していることを明らかにしているのです。私は手を用いて奉仕をするから「手」だ、私は口を通して誰かを励ます奉仕をするから「口」だ。あるいは一人が一つの

部分ではないかもしれません。あるときは「足」として誰かを訪ね、またあるときは御言葉に聞き入る「耳」として奉仕すると言われる方もおられるでしょう。いずれにしても、一人ひとりの存在が、その奉仕がどれほど小さく思われても、キリストのからだである教会に欠かせないということに変わりはありません。「キリストをかしらとした体である」ということは、主キリストの御心によって全体が、たとえどれほど違っていたとしても、氣にいる気に入らないという人間的な思いはさて置いて、キリストにあつてただ結ばれている。これが、私たち教会なのです。

今日はその中で、私たちが「キリストをかしらとする体」の目であるということについて考えたいと思います。先月の家庭集会で取り上げた一冊の本に次のように書いていました。「イエスの相手は、たいいていの場合、取税人、盲人、足なえといった、当時、人々にさげすまれ、憎まれ、人の情にすがって生き、社会からはみだした人々であった。生きる意味を取り上げられてしまった人々であった。」つまり、主イエスのまな

ざしは、社会における弱い立場の者に向けられていたということです。「キリストをかしらとする体としての教会」という私たちの集まり、その一人ひとりがキリストの目であるという場合、キリストがそのまなざしを向けられた相手に、私たちがもまた目を向けていくことが期待されているのではないかと思うのです。イエスのまなざしが、絶えず外に向けられたように、私たちの目も教会の内部の人や事柄にばかりではなく、何よりもキリストが目を向けられた人、事柄に目を向けていくということが望まれているのです。ですから私たち教会の交わりは、キリストの目としてキリストがその目を向けられる人々に教会としての目を向け、探し求め、その結果すべての人々が見いだされ、神にある喜びを共に味わうようになる。これがキリストをかしらとする教会に託された宣教であり、私たちの集まりが目指すことにちがいないのです。

そして私たち教会が、キリストの目として失われた方々を捜し求め、見いだすようにと用いられるのは、私たちもまた、失われた者であり、そ

して見いだされた者であるからです。私たちは、礼拝のたびに祝福と共に派遣されるのですが、日常の生活に戻ると、神から遠く離れ、ただ自分のために生き、見失われた者となってしまうことが少なくありません。そして私たちが我に返って戻ってくるのが、週の初めの日の礼拝の場にほかなりません。戻ってくる私たち、あなたの子と呼ばれる資格はないという私たちをそれでも、見いだすと「憐れに思い、走り寄って」迎えてくださる主が待っておられるのです。こうして毎週の礼拝の場において、見失われていた者が見いだされた大きな喜びが起こるのです。このようにキリストの目によって見いだされ、救われた私たちですから、この主の目になりたいのです。キリストの目となつて、キリストが目を向け、共にいようと望まれるあらゆる人々へのまなざしとなり、手となり足となり口となり耳となつて、すべての人々が見いだされた天にある大きな喜びを共に味わうために、再び日々の生活へと遣わされてキリストの体としてそれぞれに生きるのです。

(四旬節第4主日)

■宣教計画進捗

2019年度宣教計画として、おおよそ次のことが掲げられています。

- ① 「信仰の交わり」
礼拝を中心とした信仰生活を共に
- ② 「福音の宣べ伝え」
「小さな」伝道を継続的に共に
藤が丘教会ウェブサイトにや
フェイスブックを紹介する。
ア 礼拝ライブ中継の紹介
イ カードを作成
- ③ 「みことばを教え」
礼拝以外にも「みことば」を共に
学ぶ機会をつくる、参加する
家庭集会の開催
- ④ 「愛による奉仕」 遠ざかつて
いる信徒、別帳会員、新来者の
ために祈る
月報等の送付、一言メッセージ
名簿の一元管理化
信徒による信徒訪問

教会規則にある教会の目的には、

「この教会は、キリストの命に従って、信仰の交わりをなし、福音の宣べ伝え、みことばを教え、愛による奉仕をなし、これらのことによって神に仕えることを目的とする」と明記されています。藤が丘教会では、宣教計画を教会の目的に提示されている4つの項目に合わせて立案しています。それぞれを実践することを通して、「神に仕える」教会の群れでありたいと願っています。どうぞ、教会の一員としてお祈りください。お力添えをお願いします。

①教会活動の中心は、礼拝にあります。ルーテル教会では特に礼拝を「神が奉仕してください」とし、「私」の都合ではなく、神の招きに応え、礼拝の場に集められていることを改めて自覚するよう努めます。②今年「小さな」伝道に取り組んでみましょう。「福音の宣べ伝え」は、私たち一人ひとりによってなされるのが期待されています。大きなことはできなくても、「小さな」ことを少しずつ担い合い、それが集まって教会の宣教となります。そのためカードを作り、誰かに渡していた

だければと願います。

③現在、学ぶ機会として「聖研」、「洗礼後の学び」の週日の集会に加え、「家庭集会」、「エウテイクの会（仮称）」が2月より始まっています。

④名簿の一元管理化に取り組みました。これにより最新の情報を共有することが出来ます。信徒による信徒訪問も、少しずつ実現されています。引き続き呼びかけてまいりたいと思います。

「小さな」伝道カード表面(上)と裏面(下)



**教会のドアは、
あなたのために
開かれています。**

礼拝: 日曜日午前10時半
こどもの礼拝: 日曜日午前9時

その他、くわしくはホームページまたはfacebookをご覧ください。
※裏面にQRコードがあります。

☎ 045-973-2729
✉ fujigaoka@jelc.or.jp

日本福音ルーテル藤が丘教会
横浜市青葉区藤が丘2-31-21

■女性会だより

日時… 3月17日 礼拝後
参加者… 16名

- 1 聖書の学び…創世記3章20節～21節～裸のままです
- 2 その他

・「女性の集い」 4月27日

日吉教会 10時～14時半

講演 松岡俊一郎牧師

(大岡山教会牧師)

ホームページはこちら!



Facebookはこちら!

■リンク先で、どちらか選択
することができます。



Facebookページに「いいね!」をお願いします。

コンテンツ

- 礼拝ライブ中継(日曜朝10時半)
- 説教音声
- イベントの案内
- 教会カレンダー
- 月報 etc.

ホームページ、Facebookへどうぞ。

